



## 読書の秋に読書活動の充実を

県が実施した調査によると、今年度、県内小学校の約 94%、中学校の約 89% で、全校一斉の読書活動が実施されており、多くの小・中学校で子どもたちに読書活動の機会が設けられています。また、小学校においては、95%以上の学校で読み聞かせが実施されるなど、各校で子どもの読書活動の充実に向けて、様々な取組が推進されています。令和6年3月に県教育委員会が策定した「愛媛県子ども読書活動推進計画」には、次のような取組が示されています。読書活動を充実させるために、できるところから、また、自校に合うようにアレンジして取り組んでみてはどうでしょうか。

### ○授業時間における学校図書館の活用

- ・国語の時間に学習した俳句や詩、短編など、学習内容と関連する本や文章に触れる。

### ○電子版読書通帳「みきゃん通帳」の活用

- ・読んだ本を記録する。
- ・読まれた数ランキング、県内児童生徒の感想や書評などの閲覧をし、読書の幅を広げる。

### ○異年齢交流による読み聞かせ

- ・小・中学生が幼稚園等で読み聞かせを行う。

### ○朝の読書等「一斉読書」

- ・教師も児童生徒と一緒に読書をする。
- ・朝読書の時間が取れないときは、別の時間に一斉読書の時間を設けるなど工夫する。

### ○休み時間・放課後における学校図書館の利用

- ・図書館に子どもたちが立ち寄りやすい雰囲気づくりをする。
- ・読み聞かせやブックトークを行ったり、推薦図書コーナーを設置したりする。

### ○学級文庫の充実

- ・子どもたちの関心が高い図書や、授業で参考になる図書を準備する。
- ・定期的に本を入れ替える。



「読書は私たちに未知の友人をもたらす」  
(オノレ・ド・バルザック)  
子どもたちがたくさんの友人と出会える機会をぜひ作ってください。

「愛媛県子ども読書活動推進計画」には、他にも、計画策定の趣旨、本県における子どもの読書活動の現状と課題、子どもの読書活動推進のための方策などが記されています。ぜひ、ご覧ください。



#### (1) 乳幼児期

・乳幼児期の子どもは家庭のほか、幼稚園や保育所等で一日の大半を過ごすため、この時期の子どもの読書習慣の形成にとって、保護者や保育士等による読み聞かせが重要です。保護者や周囲の大人に優しく語りかけてもらう中で、子どもは本のおもしろさを知り、言葉を覚え、感性が磨かれます。**絵本を読み聞かせたり、一緒に本を読んだりするなどの取組が必要です。**

#### (2) 小学生期

・小学生期の子どもは、本を読む習慣が身に付き始め、自分で終わりで読むことができるようになります。また、高学年になると、読書を通して自分の考えを広げることができるようになります。そこで、**低学年や中学年では、読み聞かせやブックトークなどにより、様々なジャンルの本に興味を持たせたり、高学年では、調べ学習等で目的に合った本や新聞などを活用させたりする取組が必要です。**

#### (3) 中学生期

・中学生期になると、活動範囲や興味・関心が飛躍的に広がるとともに、論理的思考力や情報処理能力が伸びていきます。この時期には、**子どもの多様な興味・関心に応える本や様々な立場や考え方に触れる本などが身近にあり、日常的に読書に親しむ環境を整えることが必要です。**

＜発達段階に応じた取組＞

## 子どもの読書活動優秀実践校

文部科学省は、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動を推進するために、特色ある優れた実践を行っている学校・園、図書館などに対し表彰を行っています。これまでに愛媛県では小学校28校、中学校20校が表彰を受けています。

### ○令和6年度子どもの読書活動優秀実践校

#### <松山市立荏原小学校>

学校図書館支援員と地域ボランティア集団

「もこもこ」による読書啓発活動

- ・朗読劇、お話会や読み聞かせ
- ・ブックトーク など

#### <宇和島市立城北中学校>

- ・特設コーナーの設置による本紹介
- ・状態のよい廃棄図書の地域公民館への寄贈
- ・文化祭における有志によるビブリオバトル
- ・ポップアップカードの募集 など



【人権・同和教育参観日 朗読劇】



【「もこもこ」の読み聞かせ】



【生徒から募集したポップアップカード】

全国の優秀実践校・園等の取組がHPでも紹介されています。参考にしてください。

<https://www.kodomodokusyo.go.jp/jirei/>

